日本共産党市議会議員　塩原孝子　第13号　2022年４月発行



たか子のあったか通信

発行責任者：塩原孝子　連絡先:松本市寿北5-15-27　Email：takako092@outlook.jp　☎0263-27-1122（共産党）

市民の声が行政を動かしました

子どもの医療費窓口無料化18歳まで実現

さらに窓口負担ゼロに



母の願い

三人の子供を出産後、三人とも持病があることがわかりました。そのことで、子供の定期通院が必要となりました。通院やリハビリ、福祉事業所への通所が必要となり、親はフルタイムの仕事の継続が不可能になりました。想定外の大幅な収入減となり、生活は毎日節約を意識しての日々です。年齢が大きくなると学費にお金がかかるので、十八歳までの医療費が無料化されることはとてもありがたく感じます。

ただ、一回五百円の自己負担は一通院＋薬局での薬の受け取りまで含めると、一回に千円の自己負担です。この自己負担はとても重い負担です。食品の買い出しに数十円でも値引きになった物を選ぶ毎日の中で、千円の価値はわが家にはとても大きなものです。

せめて、自己負担を以前の三百円にしてほしい。できれば、他県のように窓口負担をなくしてほしい。これはとても切実な願いです。

（三児の母）

活動日誌

持ってけ市



民主青年同盟が主催する松本大学「持ってけ市」に参加しました。コロナ禍、学生を応援する取り組みです。

支援物資をお渡ししながら話しをすると、アルバイトが出来ず生活が厳しい・サークル活動ができず友達ができない等の悩みを聞きました。

通常の大学生活が出来ていないことが分かりました。

高校生との交流

議会の交流部会中心に松本工業高校や梓川高校の生徒さんと交流をしました。

高校生の皆さんが交流するにあたり、事前調査をして臨む姿に大変感心しました。交流の中で、切実な要望が出されました。いくつか紹介します。



☆全国の最低賃金を調べたら長野県は安すぎる。アルバイトの時給をもっと上げて貰いたい。

☆上高地線を利用しているが、料金が高い。安く出来ないか？

☆松本市は生理用品の無料配布をしているが、貰える場所が限られている。駅や学校のトイレの中に置いて欲しい。

◎生理用品については担当課に要望を上げました。

通学路の安全チェック

建設環境委員として市立病院建設に伴う波田駅前整備の現地確認を行いました。

横断歩道の先に線路があり、病院ができれば交通量も増えます。子ども達の通学路の安全確保が課題です。

行政は地域住民とワークショップ等をして意見交換する予定とのことですが、住民の声を反映した総合的な視点での整備を要望しました。



横断歩道と遮断機の両方を見ながら通行する

ほっとひといきコーナー

暮らしの相談から

長年のひきこもり状態の方への対応について保護者からの相談がありました。

専門相談機関に出向き、相談の目途をつけました。まずは保護者への支援をして貰えることになりました。

シングルパパからの生活相談がありました。

市役所内の複数の福祉担当課が連携とりながら支援をしてもらえるように体制を整えました。

コロナ禍で店を営業しているが、お客さんが極端に減って売り上げが減少しているので何か使える制度はないかとの相談がありました。

事業復活支援金という制度が活用できることを紹介しました。



右のQRコードは塩原たか子のメールアドレスです。

ご意見、ご希望、お困りごとなどありましたら、ご連絡ください。

たまに訪れる孫とのふれあいが癒しのひとときになっています。

近所をのんびり散歩をするのですが、散歩しながらクイズの出しっこをしています。四歳になると賢くなるものです。



歩きながら頭の体操もして「認知症の予防」になるかもと思います。

この間は「おおいぬのふぐり」を見つけました。

この花が咲くともう春がすぐそこまで来ている気がして嬉しくなります。

2月議会

命・暮らし優先の市政を



予算特別委員会での総括質疑

１０３５億円の過去最大の大型予算が可決しました。

市役所の新庁舎建設計画が決定していない中での三の丸エリアビジョン計画やアルプス公園まきば山荘跡地の整備計画費の直前の削減、博物館の用地取得問題等今回の議会は紛糾しました。

大切な税金が私たちの暮らしのために使われるかチェックしていきます。



松本市の新年度予算や、新しい施策について、市民の声をお聞きしました。

コロナ禍で自営業支援を

松本民主商工会　平出克彦

事業復活支援金については市として上乗せで十万円の給付金が出るようになりましたが、四段階もあるステップを踏まないと貰えない為に困っている事業者の全てに届くか不明です。既に廃業をしている事業者もいます。

コロナが収まったら多くの店がなくなっているのではと心配しています。

相談センターが長野市しかないので、松本市で独自の相談センターを開設して欲しいし、また制度の周知も必要だと思います。

きめ細かな医療・福祉政策を

松本協立病院　小澤康士

この間松本市では、国保税三十一年ぶりの引き下げ」「子どもの医療費助成十八歳まで拡大」が実現となりました。これは、私たちが長年要望し続けてきたことであり、継続した要請行動の重要性を再認識するものでした。

医療福祉の分野は非常に多岐に渡り、一つ一つにきめ細かく課題や問題点を、特に当事者から訴えていくことが求められます。

コロナ禍という特別な状況下ですが、議員団との連携を深め、現場からの発信をしたいと思います。

強度行動障がいに初めての予算

社会福祉法人アルプス福祉会　片桐政勝

行動障がいがありマンツーマンによる個別対応が必要な方は、今でも卒業後に過ごす居場所がなく、家族の支えに頼った暮らしを送っています。また、家庭では、家の壁や家電製品など気になる物があると使い方が分からなくていじり壊してしまったり、思うようにならなくて壁を蹴ったりし、家の中は何度となく改修・補強を重ね費用もかさんでいます。

今回の障がい福祉の予算は、こうした現状を支える家族に焦点を当てた、全国的に見ても画期的なものであると思います。これをステップに、今後は支える人財にも予算を確保し、支援の質の向上にも取り組んで頂きたいと思います。



意見書・請願採択

選択的夫婦別姓制度

「選択的夫婦別姓制度の導入について国会審議を求める意見書」が全会一致で可決されたことは画期的です。

この意見書をツイッターに上げたら４５００人が見てくれています。全国的にも注目されている課題だということが分かりました。



冤罪被害者を生まないための再審法改正

冤罪が後を絶たない中で「再審法改正を求める請願」が賛成多数で可決しました。

再審法の改正は国民救援会が粘り強く取り組んだ成果でもあります。会では諏訪市役所の職員の冤罪事件を取り上げたＤＶＤを全議員に配布して自宅訪問もして来たそうです。

この請願採択は県下十九市初です。

一市民として請願に取り組んで

アルプス公園キャンプ場問題

宮沢　諒

令和四年三月一日、私は生涯初めて松本市へ請願を提出しました。テーマは「まきば山荘跡地のオートキャンプ場整備について」です。予算そのものは八日に突如予算から削除されるなど、事態が急転したものの当請願は十日の建設環境委員会で採択を頂くことができました。

三月二日に長女が誕生し、二児の父となった私にとって、請願の提出は想像以上に労力のかかる作業でした。しかし、幼少期から慣れ親しみ、子どもと遊びに行くアルプス公園に「いつ、どこで、誰が」決めたのかも不明確なオートキャンプ場が多額の費用をかけて整備されることは看過できませんでした。

子育て世代は今回の事業について、知らない人も多く、知っていても声を上げられないほど日常に追われている人が多いのが実情です。声は出さなければ聞こえません。しかし、声を上げることができない人、小さな声しか上げられない人は幾多といます。一部の大きな声が優先的に反映される市政ではなく、“公”に利益のある事業が納得いくプロセスで行われることを期待します。



閉鎖された　まきば山荘跡地

総括質疑で、オートキャンプ場建設計画は政策決定のプロセスが不透明である事や、予算を直前で取り下げた市長の政治姿勢を質しました。

今後の公園整備はオートキャンプ場ではなく、誰でも無料で過ごせる公園にすべきと意見しました。

100年間 反戦平和を貫く日本共産党

戦前の日本は、国民から自由と権利を奪い、アジアで唯一の帝国主義国として、アジア諸国に対する侵略と戦争の道を進んでいました。日本共産党は、平和と民主主義を望む人々によって100年前に結党されました。当時は「戦争反対」と話しただけで逮捕・投獄され、時には拷問にかけられました。他の全ての政党が侵略と戦争に合流するなかで、日本共産党は不屈にたたかい続けました。

日本が起こした侵略戦争で2000万人をこえるアジアの人々と300万人をこえる日本国民の生命が奪われました。多くの犠牲の上に、日本は「二度と戦争はしない」と戦後世界に向かって約束しました。それが「憲法9条」です。

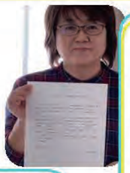
私たち日本共産党はどんな国であれ、覇権主義的な干渉、戦争、抑圧、支配を許さず、平和の国際秩序を築き、核兵器のない世界を実現するために力をつくすと綱領に掲げています。そして、その実現に向けて全力で活動しています。

ロシアはただちに戦争やめよ



核兵器・生物化学兵器を使うな





松本市議会は3月7日「ロシアによるウクライナ侵略を強く避難する決議」を全会一致で採択しました。共産党市議団の提案で、他会派の議員も賛同し採択になりました。（左上写真は決議文）



ロシアのウクライナ侵略から一か月たった3月24日、松本駅前広場で抗議のスタンディングが行われました。

平和を願う市民と一緒に戦争反対の声を上げました。飛び入りの大学生や高校生がマイクをにぎる姿に頼もしさを感じました。（左写真）